

着物をリメイクしよう

美深高養 地域と交流授業

【旭川発】美深高等養護学校（大泉貞哉校長）被服デザイン科は10月28日、呼

布の会との交流授業を行った「写真」。呼布の会会員の指導のもと、着物を切ったり、ミシンで縫ったりして着物をスカートやリボン等にリメイク。生徒たちは、楽しみながら着物リメイクの技術を学んだ。

呼布の会は、使われなくなった着物を洋服などに再生する活動を行っている美深町内の文化サークルで、呼布の会と同校は令和元年度から交流授業を行っている。コロナ禍の際、来校での交流は一時中断していた

が、4年度から対面での交流が再開している。

今回の授業では、呼布の会会員から指導を受け、着物を切ったり、ミシンで縫ったりして、スカートや



リボン等の着物リメイクに取り組んだ。

授業の終わりにはミニファッションショーを行い、それぞれの生徒が制作した衣服等を披露し「すてきだね」「かわいいね」などの言葉をかけられた。

呼布の会の会員からは「きょうの授業を楽しみにしていた」「生徒のアイデアが素晴らしい」などの感想の声が寄せられた。

大泉校長は「本校は、地域に大変お世話になり、地域と連携した学習に多く取り組むことができています。これからも地域とのつながりを大切になりたい」と話した。